



さっぽろ市
札幌市

バレエは、はなやかな衣装を着て音楽に合わせておどる舞台芸術です。2018年オープンの札幌文化芸術劇場ヒタル（札幌市中央区）は23年度から、地元のダンサーや団体と協力し北海道からバレエ作品を発信する「ヒタルバレエプロジェクト」を続けています。こども記者が2月28日と3月1日の公演に向けた稽古や舞台の裏側取材しました。（中出幸恵）

ヒタルバレエ 公演へ表現みがく

こども記者見ぶん録



指先まで気持ちこめ 衣装に工夫

こども記者は札幌市・澄川小5年の佐々木華望さんと後志管内蘭越町・蘭越小4年のアントニ虹衣さんが、ヒタルが入る札幌市民交流プラザに着くと、「くるみ割り人形」の台本担当と舞台監督の斎藤玲さん(53)が「バレエ作品をどうつくっているか説明します」と出むかえてくれました。

家チャイコフスキーの名作です。主人公の少女クララが、人間の姿になつたくるみ割り人形と夢の世界を旅する物語で、ヒタルでの上演は2回目。2幕構成で約105人が出演し、クララ役などはオーディションで選びました。

昨年9月から週末を中心に稽古が続き、この日はクララと人間の姿になつたくるみ割り人形がおどるシーンを見学しました。クララ役で3月1日に出演する巽心花さん(千歳市・北斗中3年)が、長い手足を生かし優雅におどります。

バレエはせりふがなく表情と体の動きで感情を表現します。ふり付け担当の札幌舞踊会の千田雅子さん(81)が巽さんに「指先まで気持ちこめて」と指導。ピリツとした空気に、こども記者も真剣な表情です。

斎藤さんは「衣装もすてきです。ぜひ見てほしいな」と衣装部屋を案内しました。昨秋から約10人が、すさも重要です」と解説しました。小道具を作る部屋や子役の稽古も見学。もう1人のクララ役で、2月28日に出演する湊莉々子さん(札幌市・義務教育学校福移学園8年)に話を聞きました。好きなシーンは1幕の「雪のワルツ」で「雪の精の美しさと嵐を表現するおどりが、とてもすてきなんです」と答えました。

佐々木さんは「バレエの稽古を初めて見て興味があった」、アントニさんは「衣装の工夫やバレエの技が面白かった」と笑顔。斎藤さんは「スタッフ約300人が2時間半の作品に力を注いでいます。ぜひ本番を見に来て」とPRしました。



①くるみ割り人形の主役クララ(手前右)がおどる場面の稽古を見学する、佐々木華望さん(写真奥、左から2人目)とアントニ虹衣さん(同3人目)＝札幌市民交流プラザ(いずれも加藤哲朗さん撮影) ②子役の衣装を試着させてもらいました

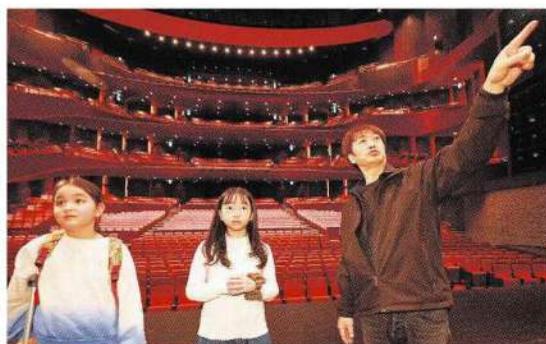
魔法の国をえがく2幕目で着る約50着を作っています。生地にがらや色をプリントしたり、レースを重ねたりと細かな作業が分かります。2人は子役の衣装を試着しました。佐々木さんはウエストにギャザーがたっぷり入ったドレス。表生地の下にスカートが2枚重なり「見た目よりも重い」と言います。

アントニさんはピンクのドレスで「体にぴったりだけど、うでを動かかしやすい」とおどろきました。斎藤さんは「バレエは、はねたり回ったり全身で表現するので、動きやすさも重要です」と解説しました。小道具を作る部屋や子役の稽古も見学。もう1人のクララ役で、2月28日に出演する湊莉々子さん(札幌市・義務教育学校福移学園8年)に話を聞きました。好きなシーンは1幕の「雪のワルツ」で「雪の精の美しさと嵐を表現するおどりが、とてもすてきなんです」と答えました。

佐々木さんは「バレエの稽古を初めて見て興味があった」、アントニさんは「衣装の工夫やバレエの技が面白かった」と笑顔。斎藤さんは「スタッフ約300人が2時間半の作品に力を注いでいます。ぜひ本番を見に来て」とPRしました。

多面舞台 場面転換スムーズ

こども記者たちは「くるみ割り人形」を上演する劇場も見学しました。特別に舞台上がり、客席を見上げます。「すごい!」。シートが4階までずらりと並び、その数2302席。斎藤さんは「どこに座っても舞台がよく見えるよう工夫しています」と言います。シートは階や場所により背もたれの角度がちがひ、前の人の頭



舞台監督の斎藤さん(右)から多面舞台の役割を聞くこども記者

が気にならないよう少しずらしています。「舞台に近い2階バルコニーの席がいいな」とアントニさん。客席から見える主舞台を中心に、上手・下手・正面奥に計四つの舞台があります。多面舞台と呼び道内はヒタルにしかありません。佐々木さんは「正面から見えない舞台も広い」と見渡します。斎藤さんは「大きなセットを上手や下手に置き、場面ごとにスムーズに入れかえられます。くるみ割り人形でも場面転換に注目してほしい」と呼びかけていました。

まなぶんデジタルに動画